

\*\*\*\*\*

## 吹田丘陵に日韓親善の笑顔が満ちた

日韓両国の高齢者同士の交流が、今年もまた4月27日(火)、社団法人釜山老人福祉振興会の160余名のメンバーを老人総合センターにお迎えして実現しました。日本側のホストには財団法人大阪府地域福祉推進財団・老人総合センター、大阪府老人大学北同窓会および大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会(SA連協)が当たりました。この交流会にはSA連協から歌体操、銭太鼓の出演者及び近隣地区SAから約50名がホストとして参加しました。

全員での交流会はセンター3階の大教室で行われました。先ず老人総合センター川西所長などの歓迎の挨拶で始まり、韓国側から釜山老人福祉振興会会長金萬律氏などが返礼挨拶をされました。金氏は「このような交流会が続いて実施できたことを大変喜んでおります。これからは韓国に来られる時は、韓国の玄関口に当たる釜山に必ず立ち寄り私達を訪ねてください。釜山での宿泊は私達の家庭でお引き受けします。是非韓国の家庭の生活ぶりを体験して下さい。」と強調して話されました。次に、双方の幹部の紹介や、記念品の交換があり、文化交流に移りました。



文化交流の一番目は、SA銭太鼓同好会の「銭太鼓」。三味線伴奏は北谷さん、曲は「花笠音頭」と「河内おとこ節」特異なコスチュームで元気あふれる演技が始まると、会場の雰囲気は一変しました。演壇が少し低い為、伸びあがって見る方も居られました。沢山の方が「銭太鼓」のリズムに合わせて身体を動かさせておられ、興味深く観ていただいていると思われました。



2番目は「琉球舞踊」素朴でゆったりとした情感溢れる踊を屋比久孟勇、ひろ子さんのお二人が

演じられました。

3番目は「韓国舞踊」2種類の踊りを見せていただきましたが、衣装も演技もさすがしく綺麗でした。



4番目は韓国の方たちによる「合唱」のプログラムでしたが先ず男性の方が独唱で日本の歌「北国の春」を歌われました。女声合唱で、「アリラン」が始まると会場内のあちらこちらから同調して歌う声が聞えてきました。



5番目はSA歌体操研究会のメンバーの指導による歌体操、「二人は若い」「好きやねん大阪」の2曲です。「好きやねん大阪」では、この曲の演技のために歌体操研究会の方たちが折り込みチラシで作られた「楽木(たのしぎ)」がゲストの韓国の人たちに2本ずつ配られました。曲にあわせてこの「楽木」を両手で頭上にかざして右に左に振り始めると、韓国の人たちの中でどっと歓声が沸き上がり、一遍に会場の雰囲気盛り上がりしました。「たのしぎ」とはよくぞ命名されたものだと思います。



6番目は赤川重美さんの「南京玉すだれ」の演技、素晴らしい技に韓国の方たちの席からもどよめきの声と喝采がありました。

7 番目はコーラスグループ「アンサンブル・エコー」のコーラスで「おぼろ月夜」「花」「みかんの花咲く丘」の見事なハーモニーが会場を包みみました。



最後は、全員で日本の歌「ふるさと」と、韓国の歌「アリラン」を歌いました。

私は韓国の人たちの直ぐ後ろに座っていたのですが、アリランと一緒に歌い終わった時、思わず韓国の人と握手をしていました。

この興奮を胸に昼食及び歓談のために、ゲストもホストも 6 組に分かれて各会場に入りました。3 階の 3 会場は大阪府老人大学北同窓会が、4 階の 3 会場はシルバーアドバイザー連絡協議会がホストを務め、それぞれの会場の担当者が異なる趣向で懇親を深めました。

この内 SA 連協が担当した 3 教室中の一つ「銭太鼓」のメンバー全員と「歌体操」の数名がホストを務める会場では、ゲスト 4 名・ホスト 2 名がテーブルを囲み、6 テーブルに分かれてお弁当を戴きました。

食事が始まると直ぐに私達のテーブルでは、一人の韓国の方が、持参された「するめキムチ」を皆に勧められ、本場の味を私達も賞味させていただきました。とても美味しかったです。

食事の後、通訳付で「お弁当は如何でしたか」とお伺いしたところ、「良かったです」との答えが返ってきました。

食後の交流は、皆さんに「ストローとんぼ」のプレゼント「これは自分で飛ばしても楽しいですが、孫世代の子供達との交流の手段として是非一緒に作って遊んで、良い関係を築いて下さい」とお願いをした上で、飛ばして遊んでいただきました。上手に飛んだり、余り飛ばなかったりと様々でしたが、結構楽しんで戴いたので、殆どの方が韓国へお持ち帰りになった事でしょう。

この後韓国の皆さんに「折り紙」を折ってもらい、次は川崎さんがマジックを披露し大喝采をいただきました。

続いて歌体操グループの方の指導で指体操、さらに日韓みんなで「炭鉱節」を踊ったのですがこれを「アリラン」でやって見ようと言うことになり、始めたところ、今までは見物に廻っていた人まで踊りの輪に加わって大合唱となり、「アリラ

ン」を何回も繰り返し歌い踊りました。最後は再会を誓いながら笑顔でお別れでした。

この日は、歌や、踊りや、素朴な遊びには、言葉の違いを超えた国際交流の力があることを実感出来た一日でした。

このような交流活動が続き、いつの日にか、釜山の公園で高齢者が子供達とともに「ストローとんぼ」を天高く飛ばし、「たのしぎ」を頭上にかざして歌体操をしている姿が見られるよう願っています。

SA 連協広報担当 才木 節雄